

長崎からのよびかけ

原爆は、人間として死ぬことも、人間らしく生きることも許しません。核兵器はもともと、「絶滅」だけを目的とした狂気の兵器です。人間として認めることのできない絶対悪の兵器なのです。

——『原爆被害者の基本要請』（1984 年）より

広島・長崎の被爆者は、人間の尊厳を根底から破壊する核兵器の非人道性を、こうした言葉で表現してきました。「核兵器は安全の保証だ」と主張する「核抑止力」論に対して、核兵器の非人道性への告発は多数の政府と市民社会に共感をひろげ、核兵器禁止条約の採択へと世界を導きました。核兵器禁止条約の発効はいまや時間の問題です。被爆 75 年を来年にひかえ、「生きているうちに核兵器廃絶を」との被爆者の願いにこたえるため、私たちは全力をあげて歴史的な行動に立ち上がる決意です。

核使用の姿勢を強めるアメリカの離脱によって、中距離核戦力（INF）全廃条約は失効し、核軍拡競争の再燃が懸念されています。5つの核保有国は一致して、核兵器禁止条約に反対し、核不拡散条約（NPT）再検討会議のこれまでの合意にも背を向けています。核兵器の脅威は決して過去のものではありません。しかし核兵器にしがみつ়勢力による逆流は、彼らの孤立のあらわれです。来年5月の2020年NPT再検討会議に向け、草の根からの運動と諸国政府の力を大きく結集して、核固執勢力の孤立をいっそう深めていきましょう。

私たちは、原水爆禁止 2019 年世界大会国際会議宣言を支持し、以下の行動に立ち上がるようよびかけます。

——被爆の実相を学び、ひろめよう。核兵器の非人道性を告発しよう。すべての地域・自治体で「原爆展」・「原爆の絵展」や被爆体験を語る集いに取り組もう。原爆症認定制度の抜本的改善と被爆者への国家補償を求め、被爆者援護・連帯の活動をいっそう強めよう。人間の尊厳をかけて闘ってきた被爆者の体験、運動、生きざまを次の世代に継承しよう。

——2020 年までに世界数億をめざす「ヒバクシャ国際署名」の運動を、首長や議員とも共同し、自治体ぐるみ、地域ぐるみで発展させよう。アメリカの「核の傘」からの離脱と核兵器禁止条約への参加を政府に強く求めよう。400 を超えた核兵器禁止条約への署名・批准を求める自治体意見書のとりくみをさらに大きく広げよう。日米核密約を破棄し、非核三原則の厳守・法制化を求めよう。

——ニューヨークでの原水爆禁止世界大会はじめ、2020 年 NPT 再検討会議での国際共同行動を全国各地の運動を結集して成功させよう。

——安倍9条改憲阻止のたたかいをさらに発展させ、「戦争法」を廃止しよう。県民の尊厳をかけた「オール沖縄」のたたかいと固く連帯し、名護市辺野古への新基地建設の撤回、普天間基地の即時返還を求めよう。軍備拡大と日米軍事同盟の強化に反対しよう。市民と野党の共同をさらに強化して、被爆国にふさわしい役割をはたすよう政府に強くせまっていこう。

——朝鮮半島の非核化と平和構築のため、憲法の平和原則をいかした外交を展開するよう政府に強く求めよう。深刻化する日韓関係は、政経分離の原則にもとづき、侵略と植民地支配の反省に立った理性的な対応によってこそ改善できる。日韓はじめ北東アジア地域における平和を求める市民の連帯を大きく発展させよう。

——原発再稼働に反対し、原発からの脱却と自然エネルギーへの転換、地球環境の保護を求める運動との連帯を強めよう。雇用とくらしの破壊、貧困と格差の拡大に反対し、軍事費を削ってくらし・福祉・教育をまもる運動を発展させよう。あらゆる差別や暴力に反対し、ジェンダー平等、LGBT の権利拡大を求めよう。表現の自由のあらゆる侵害に反対しよう。

人間の尊厳、個人の尊厳を求めるといふ共通の立場から、さまざまな運動との広範な共同と連帯を発展させましょう。人間らしく生きたいと願うすべての人びとに「核兵器のない世界」の希望をとどけましょう。被爆者とともに、若い世代とともに、未来を切り拓いていきましょう。

ノーモア・ナガサキ ノーモア・ヒロシマ ノーモア・ヒバクシャ 長崎を最後の被爆地に——

2019 年 8 月 9 日

原水爆禁止 2019 年世界大会-長崎